

社会福祉学 専攻 _____ 領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：専門科目（ _____ ）

以下の設問から3問を選択し、論述しなさい。

1. 日本の社会保障制度における財源構成の特徴について説明し、その持続可能性について、経済的・社会的視点から論じなさい。

（解答例）

以下の要素と文章の整合性、論理的記述力を評価ポイントとする。

- ①日本の社会保障制度の財源構成の具体的な明示と、その特徴が述べられているか。
- ②経済的・社会的視点として、一例として少子・高齢化やライフスタイルの変化などをあげて、社会保障制度の持続可能性について論じられているか。

2. 令和6（2024）年4月1日から、事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化された。合理的配慮の定義を具体的に説明し、その意義と残された課題について、論じなさい。

（解答例）

以下の要素と文章の整合性、論理的記述力を評価ポイントとする。

- ①障害のある人への合理的配慮の定義が説明できているか。
- ②その意義と残された課題について、具体的な事項を挙げながら論じられているか。一例として、障害のある人の社会参加、差別の解消、多様性の尊重、合理的配慮の判断基準、企業における制約条件など。

3. 単身化社会における「家族機能の社会化」に向けた課題と方策について説明しなさい。

（解答例）

以下の①～③の要素と文章の論理性を評価ポイントとする。

- ①単身化社会の進展と家族機能の変容が説明されているか
- ②家族機能の社会化に向けた課題が具体的に述べられているか
- ③家族機能の社会化に向けた具体的な方策が示されているか

4. 子どもの貧困と教育格差の要因と課題、今後に向けた方策について説明しなさい。

（解答例）

以下の①～④の要素と文章の論理性を評価ポイントとする。

- ①子どもの貧困の要因が具体的に説明されているか
- ②教育格差が生じるメカニズムが述べられているか
- ③現状の課題が整理されているか
- ④今後に向けた具体的な方策が示されているか

5. 社会構築主義に基づいた実践モデルについて一つ取り上げ説明し、ソーシャルワークにおける意義について述べなさい。

（解答例）

以下の①から③の要素と文章の論理性を評価ポイントとする。

- ①社会構築主義に基づく実践モデルについて取り上げているか（たとえば、ナラティブアプローチなど）
- ②取り上げた実践モデルについて、適切に説明できているか
- ③社会構築主義に基づく実践モデルがソーシャルワークにおいて有する意義について、適切に述べられているか、たとえば、パターナリズムからの脱却、ワーカーとクライアントの対等な関係性と協働、ストレングスの発見、社会的文脈への着目など

6. 質的調査と量的調査の特徴・長所および限界について、社会福祉における両調査手法による調査事例を挙げて説明しなさい。

(解答例)

以下の要素と文章の整合性、論理的記述力を評価ポイントとする。一例として、①それぞれの調査方法の説明と主な手法、②データ形式、③分析方法、④結果の特徴、⑤サンプルサイズ、⑥これらをふまえた長所と限界の記述、⑦具体的な調査事例の説明などである。

7. J.ロスマンが提示したコミュニティオーガニゼーションの3つのモデルについて説明しなさい。

(解答例)

以下の①および②の要素と文章の論理性を評価ポイントとする。

①3つのモデル（地域開発モデル、社会計画モデル、ソーシャルアクションモデル）について触れられているか

②それぞれのモデルについて、目的や方法、そこでのソーシャルワーカーの役割について、適切に述べられているか

8. A.マイルズが「リッチモンドにかえれ」と言った背景について説明しなさい。

(解答例)

以下の①から③の要素と文章の論理性を評価ポイントとする。

①マイルズがこの言葉を提示した1950～1960年代のアメリカの社会状況を踏まえてケースワーク発展の歴史的背景が述べられているか

②精神分析理論に依拠して個人の内面に焦点をあてたケースワークに対する批判的な指摘であることが述べられているか

③ケースワークを、問題の原因となる「社会的証拠」の収集から始め、「比較・推論」を経て、客観的分析として「社会診断」を導き出す過程であるとしたリッチモンドへの原点回帰を求める言葉であることが述べられているか

英語の問題は、問1と問2がある。問1の解答には横書き罫線の解答用紙を用い、問2の解答には
- 升目の原稿用紙を用いなさい。

問1 以下の文章を読み、----- で挟まれた部分を日本語に全訳しなさい（字数制限なし）。

（解答例）

問2 以下の文章を読み、400字以内の日本語で概要をまとめなさい。

（解答例）

現代社会では、貧困、紛争、自然災害といった脅威が複雑に絡み合い、人々の生命や尊厳を脅かしている。これらは個別の問題としてではなく、相互に増幅し合う連鎖的な危機として捉える必要がある。

「人間の安全保障」とは、こうした多角的な脅威に対し、包括的かつ予防的にアプローチする概念である。単なる軍事的な国家安全保障とは異なり、一人ひとりの人間に焦点を当て、そのニーズや希望を深く理解することから始まる。具体的には、人々の生存を支える「保護」の仕組み（統治機構や社会保障）と、自ら課題を解決できるよう促す「エンパワーメント（能力強化）」の双方を重視する。これにより、社会の回復力（レジリエンス）を高め、危機が深刻化する前に防ぐことが可能となる。多様なアクターが協力し、人間中心であること・包括的であること・文脈に沿ったものであること・予防重視であることの4原則を実践することで、持続可能な平和と発展が実現される。

（400字）